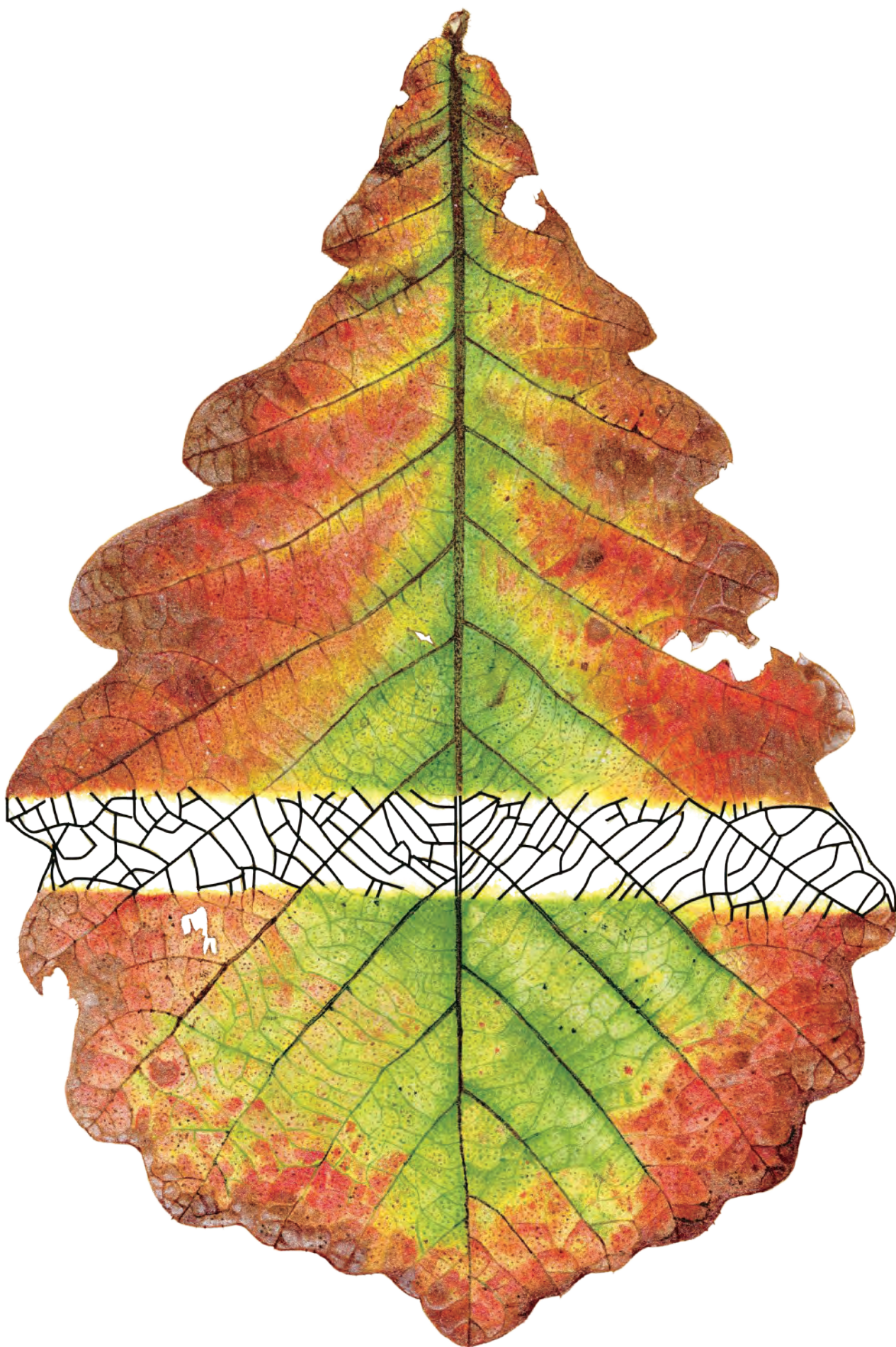


YAMATO Nature Circle



2026年5月

葉画家・群馬直美のヤマトビオトープ園の葉っぱたち Vol.87

— 絵と文 群馬直美 —

葉脈の救い《カシワ その3》

今年も新緑の季節がやってきた。
45年前、美大生だったわたしは悩みのどん底にいた。
自問自答の3ヶ月を悶々と過ごし、ふと見上げた枯れ枝に芽吹いた新緑が、太陽の光に透けていた。
「美しい!」——頭の中でこんがらがっていた紐がすーっとほどけ、
ひょいっと大きな手で悩みの淵から救い出された。
「これが本当の美しさなんだ。今味わった感覚を伝えたい!」その日から“葉っぱ”をテーマに創作をはじめた。
31年前、身近な葉っぱを描くのに忙しくしていると、コーラスをやっている友達のお母さんから
「『あれから50年』と題した歌のイベントをするので、ポスターを描いて」と頼まれた。
あれから50年とは、戦後50年ということ。
鹿児島島の知覧で特攻隊員の指導をしていた人を招いてお話をしてもらおうという。
当日配布されたパンフレットの『特攻隊員たち』の写真を見ながら、
一人一人の名前とどんな青年だったかを事細かに語るのを聞き、
わたしが描いている葉っぱの絵と同じように思えた。
歴史の中では『特攻隊員』と一括りだが、みんなこの世でただ一人の人間である。
名前があり家族がいて友人がいて好きなことがあり、嫌いなこともある。
わたしが描いている葉っぱも同じように見えるけれど、一枚一枚全部違う。
傷つき方も汚れ方もそれぞれ。
今、たくさんのが木っ端微塵に破壊されている。
人の命はもちろん、建物も街も山も川も海も木も動物も虫も……。
カシワの葉っぱを3回に分け部分ごとにゆっくり描いている間に、こんな世の中になろうとは!
地球の行く末を窺い絵筆を走らせると、葉脈は途切れることなくみんなつながっていた。
そんなあたりまえのことに安心させられた。



葉画家 群馬直美

『踊る野菜』出版記念原画展

● 会 期 / 2026年5月12日(火)～23日(土) ※18日(月)は定休

● 時 間 / 10時～16時半(最終日は15時まで)

● 会 場 / お問い合わせ ギャラリー青らんぎ 042-345-3532 〒187-0032 東京都小平市小川町2-2051

《表紙の絵》カシワ その3

「カシワの葉っぱに手を合わせ、
地球の行く末祈る。」

・ヤマトビオトープ園にて2025年11月25日採集

・紙(ファブリアーノ エキストラホワイト極細目640g)
/テンペラ・マスキングテープ(0.5mm幅)

・size:380mm×270mm

©Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。2006年より世田谷美術館「美術大学」で葉画講師として身近な葉の美しさ、素晴らしさを伝え続けている。2019年、『下仁田ネギの一生』の組み作品で、英国王立園芸協会主催植物画展で金賞及び最高賞受賞。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』『葉っぱ描命』『Dancing Vegetables 踊る野菜』他。東京都立川市在住。 <https://www.wood.jp/konoha/>